平成２２年度　第２回特別支援教育保護者研修会報告

１　日時　　平成２２年１２月１４日（火）１０：００～１１：３０
２　場所　　江別市市民会館　３階３７号室
３　演題　　「高等養護学校卒業後の進路と成年期の課題」
４　講師　　北海道新篠津高等養護学校進路指導主事　川守田広章　氏
５　参加者数　　保護者６０名、放課後児童会職員１４名、教員８名、その他１名
　　合計８３名（詳細別紙）
６　講演概要

今日は、「新篠津高等養護学校について」「卒業後の生活について」「地域におられる方ができること」の三つを話したい。

「新篠津高等養護学校について」説明する。

学校には、産業科、木工科、クリーニング科、家庭科、農業科は比較的障がいの軽いお子さんが在籍する学科がある。

生活家庭科、生活園芸科は比較的障がいの重いお子さんが在籍する学科である。各科およそ８名の定員で募集している。来年度、農業科の募集は無い。

出身地は空知地区、石狩地区、札幌地区が多い。石狩地区は５９名おり、江別から２８名のお子さんが在籍している。交通の便から、殆どのお子さんは寄宿舎生活をしている。通常学級からの入学も増えている。その他は情緒障がいと他障がいのお子さんである。

授業は作業学習をメインに据えている。作業学習は週に９時間ある。クリーニング科は学校寄宿舎のシーツをクリーニングしている。学校外からの受入は行っていない。家庭科は今年初めての卒業する。清掃作業、ビルクリーニング、ハウスクリーニングを中心に行っている。比較的障がいの軽い学科については一日５・６時間の作業学習を組んでいる。

月曜、木曜には部活動が入っている。殆どの子が所属しており、運動系が多い。陸上部、バスケット部、サッカー部は対外的な試合もしている。

寄宿舎生活では、集団生活から窮屈さを感じているお子さんもいれば、友達との生活を楽しんでいるお子さんもいる。スペース的な問題から３～４人部屋になっている。

「卒業後の生活について」説明する。

日中活動の一般就労は、会社、工場、店舗等であり、業務は、洗い物、品だし、清掃、弁当作り、発泡スチロール運搬、缶瓶リサイクル、ごみ収集等である。

福祉就労は、就労移行支援（こねくと）、就労継続Ａ型・Ｂ型（陽だまりの郷、笑くぼ他）、自立訓練（生活訓練、機能訓練）、生活介護（えべつ明友荘、ななかまど他）、地域活動支援センター他に行っている。

生活の場としては、殆どのお子さんは自宅から通所・通勤している。

グループホーム、ケアホームは増えているが、費用（５～７万円）のことから一般就労

していないと難しい。７名はすべて一般就労している。春、４名がアパートに入ったが、現在１名だけになっている。完全な一人暮らしはここ数年いない。

施設探しでは「ＷＡＭ　ＮＥＴ」を利用している。インターネット上の情報なので、分からない部分も多い。

一般就労の例で、給与６万円、年金６万６千円、合計１２万６千円が全ての収入である。また、殆どがパート採用である。北海道の最低賃金は６３１円だが、最低賃金を割ることも、半分くらいあるかなと思っている。グループホームに５万円くらい必要になる。福祉就労では、３千円から高いところで５万円であり、年金を上手く使いながらやっているのが現状である。

卒業生の就労状況				
	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度
一般就労	１０	１０	１２	１７
通所授産（旧法）	１４	１２	７	１
入所授産（旧法）	２			
通所更正（旧法）	５	１	１	
入所更正（旧法）		１		２
就労移行支援	１	４	３	３
就労継続Ａ			１	６
就労継続Ｂ	３	５	６	８
自立訓練		１	２	
生活介護	１	３	９	３
地域活動（作業所含）	１	４	１	
短期入所			１	
進　　学	１	１		１
合　　計	３８	４２	４３	４１

卒業生の生活状況				
	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度
入所支援		１	２	１
ＧＨ・ＣＨ		２	３	２
アパート				４
通勤寮（旧法）	２	１		
入所授産（旧法）	２			
入所更正（旧法）		１		２
自　　宅	３４	３７	３８	３２
合　　計	３８	４２	４３	４１

進学では、はまなす食品能力開発センター、北海道障がい者職業能力開発校（砂川市）、殆どがパート採用であり、トライアル雇用、特定求職者雇用開発助成金、ジョブコーチ制度などの援護制度をつかって働いているのが現状。

就職後の課題として、離職するお子さんが多いことである。

今年は１１名が離職している。７年働いている子でも辞めている。働きつづけることは難しい。始まりは生活の乱れ。朝起きてなんとなく行きたくない。学校と職場の違いを受け入れられないお子さんもいるようだ。学校は同年齢のお子さんがいて和気藹々とやっているが、年齢の違いや丁寧な言葉を使わなければいけない、学校では褒められていたが、職場で褒められることが無く、叱られることばかりになる。子どもたちには、自立生活のためとか、人や社会の役に立つためと話しているが、それだけでは説得力が弱い。役割があって、期待され、評価され、収入があって仕事を続けられるのかなと思う。

余暇の過ごし方も課題である。気分転換は必要。スポーツ観戦や旅行など楽しいことがあれば乗り越えられる。

異性に興味を持つ。結婚した例は２例ある。周りの理解がないと結婚にはならないし生活の問題もある。色々な人に相談することが大切。異性に興味が出てくるとトラブルも出てくる。携帯電話詐欺や「チョッと貸して」と言われ貸してしまうこともある。本人には加害者意識はないが、表現の方法が分からずストーカー等の加害者になる場合もある。

「地域におられる方ができること」考えてあげたいこと。

一番は所属感を持たせること。自分一人だけではないと子どもたちに思ってもらう。役割があって、期待があって、評価されて、モチベーションが上がる。家の中で役割があると、自分がやらないと進まないことがあると思うと、所属感を持てる。親や先生に言われるがどうしたらよいか分からない。困った思いも伝えられないことがある。困ったら相談することが大切であり、普段から相談すること、話をすることに慣れていることが大切。各自治体に相談指導事業があるので、日頃から困り感を共有しながら相談していることが大切である。早い時期から医師や自治体窓口とつながりを持っておくと、以前のことを分かっていて相談してくれる。

さらに、保護者も親の会やクローバー、エジソンクラブ、早いうちから色々なところと相談する、困り感を共有する。横のつながりを持っておくことが必要である。